

令和元年度 第2回 学生・教員懇談会報告書

1. 期日 令和元年11月22日(金) 12:20~13:00
2. 教職員 戸田晶久、有竹浩介、小松生明、藤井清永、岡崎裕之、濱村賢吾、窪田敏夫、豊原敬三、宮本明憲 計10名
(欠席:村山恵子、安川圭司、松延千春)
3. 学生 5年生から選出 計10名
4. 場所 大会議室
5. 懇談テーマ「実務実習について」～実務実習を終えて～
6. 出席学生10名に向けて

Q1. 実務実習を終えての感想を聞かせてください?

■病院実習について

- ・調剤室や病棟等、各担当の先生がマンツーマンで丁寧に対応してくれた。
- ・抗がん剤や抗菌剤、新薬や難病についても経験ができた。
- ・病院では様々な疾患を経験できた。
- ・8疾患全てを経験できた。
- ・服薬指導は5名しかできなかった(九州大附属病院)。
- ・毎日1名の症例検討を経験できた。
- ・小児科・産婦人科での経験だったため、他の診療科も見てみたかった。
- ・スケジュール管理がよく、5名程度の経過観察ができた(佐賀大附属病院)。

■薬局実習について

- ・指導薬剤師がカリキュラムを理解していない。服薬指導は0人だった。
- ・整形外科門前の薬局であったため、痛み止め・湿布薬等ばかりであり偏りがあった。
- ・泌尿器科門前であったがチェーン店であったので、多くの店等での研修で補うことができた。
- ・精神科門前であったが、他の疾患については問題集なので対応してくれた。
- ・患者が多く非常に役に立った。

■病院・薬局共通

・指導薬剤師によって、研修内容に坂多い。指導薬剤師間の情報の共有を進めていく必要がある。

- ・薬局は熊本、病院は福岡であった。病院も地元熊本にしてもらいたかった。

■大学指導教員との連携について

- ・同級生の話を聞くと、教員による対応差を感じた。

Q2. 実務実習の空いた期間に卒業研究を行いましたか？

- ・ 挙手を募った結果 10 名中 4 名が卒業研究を行ったと回答。

Q3. 事前学習の内容は実務実習で役に立ちましたか。

- ・ 服薬指導の時に様々なお客様が来て対応が異なる。また、事前学習のように情報も多くはない。直前学習の補習等でそのような場合の対応を授業を取り入れてほしい
- ・ 実技の分野の学習は役に立った。水剤・軟膏は実習先ではやれなかったので、事前学習だけでもやっておく必要があると感じた。
- ・ 無菌製剤は役に立った。
- ・ S O A P は役に立った。

Q4. 日々の生活に変化はありましたか。

- ・ 朝が早いため、当初は大変であった。
- ・ 最初は新たな環境で緊張したが、慣れていった。
- ・ 薬局で社長がワンマンで人間関係が最低であった。

Q5. その他

- ・ 緊急時 8 時過ぎに電話したが、9 時以降に電話するように言われた。
→ 単なる伝言は処置できるように指導する。
- ・ 休校にする場合は 6 時頃には連絡してほしい。
→ できる限り早く判断するが、台風等においては接近時間が異なるため一概に前日の夜とはできない。
- ・ 就職ガイダンスを実務実習出発前（4 年次の 2 月）に実施してもらいたい。
→ 厚生委員会メンバーに伝える。

以上